

[学会情報]

日本ブドウ・ワイン学会西日本地域研究会 第10回研究集会に参加して

京都府立大学大学院 野村 憲司

日時：2014年3月22日（土）

場所：京都大学農学部

報告1 シェルターを用いたワインブドウの苗木の保護、育成

（京都府立大学生命環境学部四回生 角 京香氏）

さまざまなシェルターを用いたワインブドウ栽培における効果についての紹介がされた。シェルターがもたらす効果としては生育促進、病気の予防、さらには害獣予防があげられるが、生育促進に関しては、生育後期(高温期)には生育抑制につながってしまう側面についても述べられていた。今後、より最適なシェルターの素材、そして、取り外し時期などを検討することで、ワインブドウ栽培におけるシェルターの利用価値がより高まるのではないかと感じられた。

報告2 ワインに含まれる香気成分のテイスティング
（山梨大学ワイン科学研究センター准教授 久本雅嗣氏）

ワインに含まれる香気成分のうち、主にオフフレーバーについての化学的な解説をいただき、そして実際のテイスティングも行った。ワインの香りを悪くしてしまう各オフフレーバーはそれぞれ異なった要因で生成されてしまうとあったが、この報告を通じて、ワイン作りにおけるこれらのオフフレーバーの生成を少しでも減らす方法を模索することで、更に良い香りをもたらすワインづくりにつながるのではないかと感じられた。

報告3 竹内(タケノウチ)街道ワインクラブの取り組みについて

（飛鳥ワイン株式会社社長 仲村裕三氏）

竹内街道ワインクラブという、地域農業を振興し、遊休農地の解消を進めることを目的に、大阪府太子町において、有志を募って、ワイン用ブドウの植え付けから栽培、収穫まで体験してもらい、ワインを楽しんでもらうという取り組みの紹介がなされた。大阪は大都市圏に近いこともあり、今後、大阪のブドウ、ワイン産業がこのような活動などを通して、将来的に大きな発展を成し遂げてほしいと感じた。

報告4 イタリアの思い出から～ワインを楽しむ風景～
（近畿農政局事業戦略課 内田 誠氏）

内田さんのイタリア旅行の思い出の中から、特にイタリアでのワインを楽しんでいる様子について感じられたことが述べられた。イタリアのワイン文化について楽しく理解を深めることが出来た。

報告5 南仏ラングドックにおけるエノロツーリズムについて
（日本学術振興会特別研究員 長谷 祐氏）

フランスの主要な伝統的ワイン産地である南仏ラングドック地域におけるワインビジネス戦略の一つとしてのワインツーリズムである、エノロツーリズムについて述べられた。フランス地域では日本とは異なる気候や文化の中で、その中でのワインビジネス戦略がどのように異なるのかについて特に理解が促された。